

NUAL (ニューアル) は Nagoya University Alumni Association の略称です。



上段：第11回ホームカミングデイの名フィルの公演，下段左：鳥人間コンテストでの飛行の様子，下段右：名古屋大学中国交流センター設立10周年記念式典
Top: Concert of the 11th Nagoya University Homecoming Day, Bottom Left: Nagoya University Human Powered Airplane Team in Birdman Rally, Bottom Right: The Memorial Ceremony of the 10th Anniversary of China Center for International Exchanges, Nagoya University

Contents

特集1 第11回ホームカミングデイ報告 2
The Events at The 11th Home-Coming Day

特集2 名古屋大学人力飛行機制作サークル
AirCRAFT の活動と記録 3
Nagoya University Human Powered Airplane
Team (AirCRAFT): Activities and Recording

活躍する会員たち 4
NUAL People in Action

同窓会ニュース 8
NUAL News

事務局からのお知らせ 16
From the NUAL Office

今号では、2015年10月に行われた第11回名古屋大学ホームカミングデイの様子をご報告し、2014年度「鳥人間コンテスト」の優勝を果たした名古屋大学人力飛行機制作サークル AirCRAFT をご紹介します。活躍する会員たちのコーナーでは海外と国内の教育と研究分野で活躍している本学の卒業生2名の研究者よりご活躍の様子をお話させていただきます。

In this volume, we first report the events at the 10th Nagoya University home-coming day. Next, we will introduce Nagoya University Human Powered Airplane Team, a student based group, which won the Champion of Birdman Rally 2014. The “NUAL People in Action” column shares stories of two alumni members who are actively conducting research and educating in Taiwan and Japan.

第11回ホームカミングデイ報告

The Events at The 11th Home-Coming Day

名古屋大学全学同窓会代表幹事 11期生 伊藤 義人

1. はじめに

平成17年から始めたホームカミングデイ（HCD）は11回を迎えました。私はディレクターとして今年で7回目ですが、今回を最後にするつもりです。

2. 第11回ホームカミングデイ

第11回ホームカミングデイが、平成27年10月17日（土）に、「持続可能社会の実現に向けて」をテーマとして行われました。参加者は昨年とほぼ同じで約4,700名になりました。

当日は天候にも恵まれ、盛況なホームカミングデイになりました。特に、午前10時から豊田講堂で、昨年ノーベル物理学賞を受賞された天野浩特別教授の講演会「世界を照らすLED」（工学研究科企画）を実施しました。市民も事前予約なしで参加できたため、開場1時間前から並び始め、40分前には400名以上が列をつくりました。通常、学術講演会は、シンポジオンで行っていましたが、今年は多くの参加者が予想されたので、豊田講堂を会場にしました。市民だけでなく、豊田章一郎全学同窓会会長、松尾清一総長、および本部役員なども参加して、豊田講堂は満員になりました。終了後に、参加者が他のホームカミングデイの行事に流れて行き、今回のホームカミングデイが盛況になった理由の1つになりました。なお、シンポジオンでは、名大生サークルによるミニコンサートが行われました。

豊田講堂2階とアトリウムには、青色発光ダイオードの開発段階の実物、ポスターおよび持ち帰り自由の4大新聞紙の号外を展示するとともに、工学研究科の研究活動の展示もされました。

参加者全員に配った、名古屋大学の建物を描いた不織布のオリジナルバックとともに、天野先生のノーベル物理学賞授賞式をプリントしたクリアファイルやエコバックと同じデザインのペットボトルの水などを配布しました。

豊田講堂で13時半から開催されたメイン行事の「名古屋大学の集い」は、昨年度と同じ浦口史帆さん（東海テレビアナウンサー、平成23年名古屋大学教育学部卒業）の司会で始まりました。第1部は、松尾総長と豊田会長の挨拶の後、ホームカミングデイ・ディレクター兼全学同窓会代表幹事として、私からいつものようにホームカミングデイの趣旨と実施行事および全学同窓会の近況を報告しました。今年は、卒業年度末尾に「5」の付く周年記念卒業生・修了生を招待し、約600人の方々が参加しました。

次の国際交流貢献顕彰の表彰では、全学同窓会のラオス支部長のブンフェン ボウマレイシスさん（ラオス保健省官房長）、北京支部の清華大学の林紅教授とフィリピン大学のジョセフ マサンカイ名誉教授の3名に賞状と記念品が授与されました。

「名古屋大学の集い」の第2部は、いつものように名古屋フィルハーモニー交響楽団のコンサートを行いました。今回は、指揮者に

名古屋大学理学部卒（昭和47年）の内藤彰さんと地元愛知県生まれで滝高校出身のオペラ歌手の百々あずささん（ベルリン在住）を迎えました。プログラムの前半は、序曲「フィガロの結婚（モーツァルト）」、その後、百々さんのソプラノで、「帰れソレントへ（クルティス）」、「ある晴れた日に（蝶々夫人、プッチーニ）」などの7曲を聴きました。大変のびやかな歌声が豊田講堂に響きました。アンコールは、日本語で「落葉松（小林秀雄）」でした。後半は、内藤指揮者のこだわりの「交響曲第9番新世界（ドヴォルザーク）」でした。ドボルザークと云ってはいけないと要請され、原語音に近いドヴォルザークとプログラムに書きました。また、従来の楽譜は自筆譜とは異なるということで、日本語と英語で解説を書かれた自筆譜スコアを出版されており、これに基づく名古屋初の演奏でした。注意深く聞きましたが、残念ながら、私の音楽力では違いは分かりませんでした。後で、内藤さんに伺いスコアを見せてもらい、シンバルの入り方が半拍違うというような説明がありました。クラシックは、作曲者の意図が第一ですので、このようなことが大事なのかもしれません。アンコールは、定番の「スラブ舞曲第8番（ドヴォルザーク）」でした。いずれも、指揮者の情熱が伝わった大変な熱演で、豊田会長がスタンディングオベーションをする程でした。最近の名フィルの定演の演奏より良い出来でした。

ホームカミングデイの他の行事は、いつものように各部署と同窓会行事とともに施設公開が行われました。本のリユース市、農産物の販売、スパコン見学、あかりんご隊科学実験やサッカー教室などが盛況でした。今年から、名大・ママカフェという女性卒業生向けキャリア支援企画もありました。土木教室では、N²U-BRIDGEの見学会を行いました。

なお、ホームカミングデイの前夜には、フィリピン支部長のコリアードさんや国際交流貢献顕彰を受けられた3名の方々を迎えて、豊田会長、岡田副会長、松尾総長および本部役員などの同席の下で、海外支部歓迎会を実施しました。大変なごやかでよい会となりました。



国際交流貢献顕彰の記念写真

名古屋大学人力飛行機制作サークル AirCraft の活動と記録 Nagoya University Human Powered Airplane Team (AirCraft): Activities and Recording

名古屋大学人力飛行機制作サークル AirCraft は毎年夏に開催される「鳥人間コンテスト」に積極的に参加し、2014年度には当コンテストの優勝を果たした、グループの活動と記録をご紹介します。

Nagoya University Human Powered Airplane Team (AirCraft) actively takes part in the Birdman Rally which is held in summer annually. We introduced their activities and recording including their first Champion in Birdman Rally 2014.

名古屋大学人力飛行機制作サークル AirCraft 2016年度代表 海野 貴之

名古屋大学 AirCraft は人力飛行機を制作・運用しているサークルです。毎年夏に開催される「鳥人間コンテスト」での優勝を目指し日々活動しています。

2000年頃から名古屋大学での活動が始まりましたが、当初は鉄パイプやビニールシート等で作られた簡易的な半屋外の作業場で活動していたようです。その後2009年に大学内の共同利用施設が作業場として与えられ、さらに2010年から、同施設のより広い部屋を作業場として利用することができるようになりました。これにより現在ではほとんどの制作作業を作業場内で行えるようになっています。

2002年には鳥人間コンテストに初出場し現在までに8度の出場を果たしています。2006年に人力プロペラ機タイムトライアル部門が新設されて以来はこの部門での優勝を目標とし、2013年度大会で準優勝、2014年度には念願の優勝を果たしました。

現在 AirCraft には1年生10名、2年生19名の計29名が所属しています。主翼・尾翼・プロペラを制作する翼班、計器やプログラムを作る電装班、カーボンパイプの切断や接続を行うカーボン班、駆動部のパーツを制作する駆動班に別れて制作を行っています。3年次の鳥人間コンテストを終えると引退となりますが、その後もOB、OGとして多くの方々からご指導ご支援を頂いております。

AirCraft では毎年1機的人力飛行機を新たに設計、制作し、運用しています。設計には主翼の形状を決める空力設計と、主翼の中に通すカーボンパイプの構成を決定する構造設計等があり、これを夏休みに行います。

10月、11月には設計に従ってカーボンパイプを制作します。シート状のカーボン素材をバームクーヘンのように巻き重ねることで軽くて丈夫なカーボンパイプを作っています。毎年10本以上のパイプを制作しますが、1本作るのに半日以上掛かることもあり人手も必要なため、全ての班合同で休日に行っています。

制作したカーボンパイプに設計通りの強度があるかどうかを確認するための試験（荷重試験）を12月中に行います。広く暗い場所で行う必要があるため、屋外で日没後に行われます。寒空の下での試験は長時間にわたり、辛い作業となっています。

その後は主に班ごとにわかれて主翼やプロペラ、駆動部分の金属パーツ等を制作していき、春休みに制作作業が大詰めを迎えます。

機体が完成すると全組試験、テストラン（走行試験）を行います。その後5月下旬頃からはテストフライト（飛行試験）を行い、ここで初めて機体が空を駆ける事になります。1年間かけて作り上げた機体が初めて地を離れた時の感動は何ごとにも代えがたいです。テストフライトは楽しい行事ですが、やはり一番の目的はテストにあります。終了後はすぐにミーティングを行い、次のテストフライトまですべき調整や改善点等を話し合います。テストフライトは岐阜県の飛行場を借りて週末に行っており、鳥人間コンテストの直前まで行わ



鳥人間コンテスト優勝時の胴上げ

れます。

7月末に琵琶湖で行われる鳥人間コンテストには毎年多くのチームが出場しており、大学生チームだけでなく社会人チームも多く参加しています。人力プロペラ機ディスタンス部門、人力プロペラ機タイムトライアル部門、滑空機部門の3つの部門があります。私たちが出場しているタイムトライアル部門は他の2つの部門とは異なり、人力飛行機の速さを競うものになっています。スタートラインから500m進んだ後、180度旋回して折り返し、500mを戻ってくるまでの計1kmを飛行するタイムを競います。AirCraft では毎年、チーム内からパイロットを選出しており、鳥人間コンテストにむけてハードなトレーニングを行っています。タイムトライアル部門では180度の旋回を行う必要があるため、実際的人力飛行機に似せたコンピュータシミュレーションを用いた操舵の練習も行っています。

鳥人間コンテストへの出場のほか、人力飛行機をより多くの人に知ってもらうために機体の展示も行っています。2015年度には名大祭のほか、業で行われた「航空宇宙フェア」においても機体を展示させて頂きました。実際に鳥人間コンテストに出場した機体を修復して展示し、多くの来場者様に楽しんで頂きました。

AirCraft は、人力飛行機にエルロン（補助翼）やフラップロンのような新たな技術を積極的に導入し、さらなる高速化とスムーズな旋回を図ってきました。また、より効率的で精度の高い作業を実現するために、新しい製作方法や工具、治具を取り入れてきています。

現在、私たちは新しい技術を取り入れた機体を2016年夏の鳥人間コンテストに向けて制作しています。これからも AirCraft は鳥人間コンテストでの優勝、記録の更新を目指して元気に活動を続けていきます。

この度は、名古屋大学全学同窓会平成27年度第1回支援事業として支援していただいたため、このような形で当サークルの紹介をさせていただきました。今後とも応援していただけたらと思っています。

活躍する会員たち NUAL People in Action

「活躍する会員たち」では、同窓会会員の各界におけるご活躍ぶりを紹介しています。第25回は、1998年本学文学研究科日本語文化専攻修士課程を修了された台湾台中科技大学応用日本語学科准教授兼主任の黄英哲さん、また、2005年本学環境学研究科を修了された神戸大学大学院人間発達環境学研究科准教授の田畑智博さんにお話いただきます。

The “NUAL People in Action” column features our alumni/ae playing active roles in various fields. For our 25th edition, we will hear from Professor Ying-che Huang, who graduated from Graduate School of Language and Culture in 1998 and is currently working as Dean and Associate Professor of Department of Japanese Studies of National Taichung University of Sciences and Technology, and Professor Tomohiro Tabata, who graduated from Graduate School of Environment Studies in 2005 and now is teaching as Associate Professor at Graduate School of Human Development and Environment of Kobe University.

こう えいてつ
黄 英哲さん



■略歴

- 1988年6月 台湾台中商専応用日本語学科（現台中科技大学）卒業
- 1990年7月 日本アジア航空台北空港支店職員
- 1994年6月 台湾東呉大学応用日本学科卒業
- 1998年3月 名古屋大学大学院文学研究科日本語文化専攻修士学位取得
- 1998年8月 台湾僑光技術学院応用外国語学科講師
- 2005年3月 九州大学比較社会文化学府博士号取得
- 2009年8月 台湾大葉大学応用日本語学科准教授兼主任
- 2013年8月 台湾台中科技大学応用日本語学科准教授兼主任

■私の一生を変えてくれた名大「日言文」に感謝

私は1988年に台湾の台中科技大学応用日本語学科を卒業した後、義務兵役で入隊しました。退役後、日本アジア航空に就職して3年8ヶ月台湾桃園国際空港の旅客部と総務部の職員として勤務していました。しかし、日本人の同僚と仕事をするうちに、ますます日本の国民性に関心を抱き、日本文化に魅了され、日本語と自国語の差異について研究したいと思うようになり、1994年に仕事を辞めて日本へ留学する決心をしました。渡日する前に東呉大学日本語学科に編入学して2年間勉強しました。来日後は名古屋大学で1年間研究生をした後、1996年に名古屋大学大学院文学研究科日本語文化専攻の博士前期課程に入学しました。指導教官は日本語教育が専門の大曾美恵子先生と尾崎明人先生で、修士論文のテーマは「「接触場面」における repair」でした。名古屋大学の日本語文化専攻は日本でも有数の日本語教育研究機関であり、授業や論文指導は厳しかったけど、指導教官をはじめとする先生方から研究に関するイロハを一から教わることができ、その後の博士論文執筆や現在の研究に生かすことができました。名古屋大学にいた3年間は私の人生を変えてくれた大きな時期でした。幸い交流協会の奨学金を得ることができたため、日本での生活の助けとなりました。その後、台湾に帰国して僑光科技大学で3年間日本語を教えた後、2001年に再び日本に来て九州大学で博士号を取得しました。博士論



指導教官と撮影（1998年3月25日）

文のテーマは「インタビュー会話に見られる情報要求とその応答の「技術」について—日本語母語話者と非母語話者の比較分析—」です。

■本領発揮で全力投球

九州大学で博士号を取得した後は、2005年に台湾の大葉大学に就職し、2009年同学応用日本語学科主任になりました。2013年に台中科技大学に移り、現在准教授兼応用日本語学科主任を務めています。以下、私の仕事について学術研究、学生指導、授業担当、学科運営の四つの面から紹介したいと思います。

学術研究の面では、日本語による談話分析、日本語学習者による伝達能力の研究、日本語の授業の運営に関する研究について関心を持っており、最近では日本語能力試験の聴解問題に対する分析と台湾人日本語学習者



日本語教育学会研究集会におけるポスター発表（2015年）

の受け止め方について研究しています。日本語教育において重要なのは、日本語自体の特徴はもとより日本語学習者の抱える問題点、成長力、交流力にあるため、今後は日本語の意味や形式的な側面だけでなく学習者が実際に抱えている問題についても研究していきたいと考えています。学会活動は台湾日本語教育学会、台湾日本語文学会で行われる学術シンポジウムに積極的に参加しております。また、毎年一回日本で研究発表をする目標を立てています。

学生指導の面では、日常の授業や学部生の卒業制作、大学院生の修士論文のほか、学外の作文コンテストやスピーチコンテストの指導にも力を入れています。2015年指導した学生の卒業論文のテーマは「応用日本語学科在学生の進路期待と卒業生の在職現状の分析」で、その成果発表ではコメンテーターの先生から「修士論文並み」だという高い評価を得ることができました。

授業担当の面では、この数年間、日中対訳、日本語の発音、文法、プレゼンテーション、日本語能力試験の受験対策などの授業を担当してきました。初心者から上級者までの学習者に幅広く対応しなければならないので、効果的で楽しく勉強できるクラスを運営することが必要です。私は野球が好きなので、日本語教師の仕事をよく野

球の監督にたとえています。野球の監督は野球の基本知識を与えるのみならず、よい練習環境を作ったり、選手の自己学習や成長を促したりしなければなりません。最近「日本語の発音」という新しい授業を担当するにあたり、初心者から指導者まで参考にできるテキストを編纂しているところです。また、外国語教育においては一方的にその言語を学習者の頭につめこむのではなく、その言語の学習を通して、自国の言語と文化を考え直すように指導していきたいと考えています。すなわち、日本語の文字・発音・単語・文法などを教える際に、日本や台湾の文化や歴史的な知識を背景にして教えることにより、言葉をネットワークで覚え、定着させるような教授法を考えています。

■激務でもやりがいのある仕事

本学科には学生が約600人います。教室内の授業に留まらず、日本の大学と実際に交流できる場をたくさん企画し、定期的に札幌大学、福井県立大学、名城大学、大阪産業大学、大阪経済大学、滋賀大学、広島大学、島根県立大学に短期、長期の交換留学生を送り出しています。更に、日台の架け橋となる人材を育成するためにダブル・ディグリーが取れるコースについて滋賀大学と協議して、2016年3月から一期生を5名派遣することになりました。一方、札幌大学、北海道教育大学函館校、名城大学、大阪経済大学などの研修団を定期的に迎え入れ、日台の学生が交流できる場を作っています。更に、2015年11月に北九州大学、及び震災地の福島大学からの大学生研修団を受け入れ、「絆」という対日理解促進交流プログラムを企画し、両国の大学生に国民性の差異についてプレゼンテーション及びディスカッションをしたり、一緒に台中市内の見学をしたりしました。

現在学科主任として大学の行政にも携わらなければならないため、自分の研究や教育に割く時間は限られています。しかし、日本と同様に台湾でも少子化や理系偏重の傾向の中で、人文研究の機構の責任者の一人として、人文研究の貴重さと面白さを学生たちに伝える責任があると思っています。

国際交流や国際理解に必要な人材を育成することは高等教育機関の責務であり、人文研究の存在意義の一つだと考えます。名古屋大学で受けた日本語・日本文化に関する高度な教育を次世代の台湾人の若者に伝授し、「台湾知日派」を育成するのが私の任務だと思い、激務でもやりがいのある仕事であると感じています。



2015 Pasona 校園日商行銷大賞（日本語アイデア大賞）で優勝した本学の学生たち

たばた ともひろ
田畑 智博さん



■略歴

- 2005年 3月 名古屋大学大学院環境学研究科 修了
- 2005年 4月 名古屋大学大学院工学研究科 助手
- 2007年 4月 独立行政法人産業技術総合研究所 産総研特別研究員
- 2010年 4月 名古屋大学大学院環境学研究科 研究員
- 2010年10月 神戸大学大学院人間発達環境学研究科 講師（2013年8月より准教授）

私は、2005年に、博士課程（後期課程）で名古屋大学に入学しました。入学に際し、井村秀文先生（現在は横浜市立大学特任教授）の研究室を選択しました。先生は環境科学分野で高名で、先生のもとで循環型社会に関する研究をしたいと考えたためです。入学してすぐ、学生の面倒や研究室の雑務を任されることになりました。自分の研究だけをやっているわけにはいきません。また、それまでは別の大学におりましたので、研究室では全く実績がありません。とにかく実績がないのに、急に色々な仕事をふられたわけです。先生方はもちろん、研究室にいるメンバー誰も私のことを全然知りません。ここでハマをするとまずいので、私なりに一生懸命がんばりました。その結果、研究室内で信頼を得ることができました。また、仕事を通じて、学生指導能力やマネジメント能力を身に付けることができました。先生は、そのようなことを見越して、私に仕事を振ったのかもしれない。

学位取得後、工学研究科社会学基盤工学専攻の助手に着任しました。雑務が一気に増えました。情けない話ですが、この時期は研究に打ち込める余裕が殆ど無く、自分は何をすればいいのだろうと模索し続けていました。

助手は任期付きでしたので、任期が終われば外に出な

ければいけません。私の状況をみかねて、外で修行してこいと考えたかどうかは知りませんが、井村先生は、茨城県つくば市にある産業技術総合研究所（産総研）を紹介してくださいました。非正規のポジションではありましたが、つくばにいた3年間は、最も研究に打ち込むことができました。厳しいながらも先見性のある上司に恵まれたこと、私と年齢が近い仲間が研究所内にたくさんいたことも、私にはいい刺激になりました。産総研では、ごみ処理広域化や木質バイオマスのエネルギー利用等といった地域施策の環境評価を担当しました。社会の実態を可能な限り反映した評価を実施するために、現地に赴いてデータを収集したり、自治体関係者と会合を行ったりするなど、様々な経験をすることができました。

しかし、非正規のポジションなので、就活は続けないといけません。就職が決まらず困っていた矢先、再び井村先生に声をかけて頂き、研究員として名古屋大学に戻りました。井村先生には、私のキャリア形成に係る様々な重要な場面で、多大なるサポートを頂きました。感謝に堪えません。

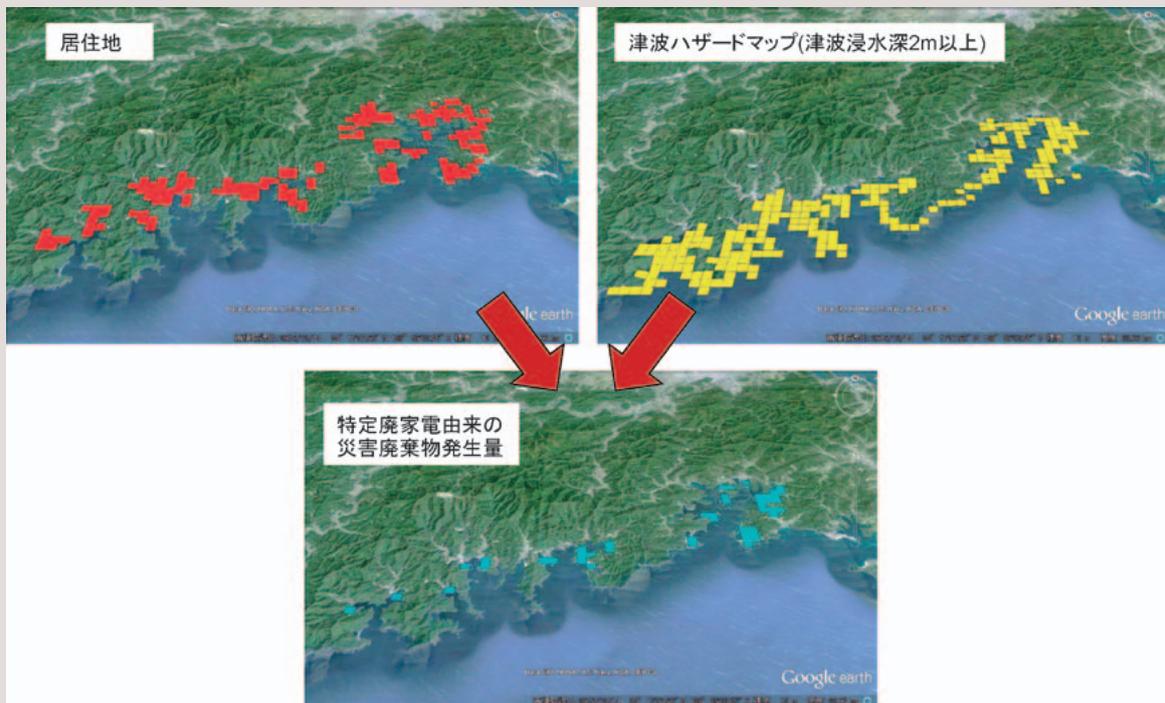
2010年10月より、神戸大学にて、教育・研究活動を行っています。現在行っている研究は、産総研での経験



ゼミ旅行（篠島）にて井村先生と雑談



山奥にて、間伐、間伐材の搬出等に係るデータの収集



災害廃棄物発生場所と発生量の推計（三重県南伊勢町での事例）

がベースになっています。私の研究をごくごく簡単に紹介します。現在、地球温暖化、資源・エネルギー制約等に伴う諸問題が注目されています。これらの問題は、地域の経済活動やそこに住む人々の生活に起因しています。そこで私は、地域や家庭を単位として、資源利用量、廃棄物排出量、化石燃料由来のエネルギー消費量の最小化を目指すことで、持続可能な地域社会を構築するための方法論を提案することを目指して研究を行っています。現在、重点的に実施しているテーマは、バイオマスのエネルギー利用の環境的・経済的評価、高齢化社会にふさわしい廃棄物処理施策の検討、災害廃棄物の発生量推計と処理システムの構築の3つです。災害廃棄物の研究について紹介します。地震のような自然災害が発災すると、人命や財産に被害が発生しますが、同時に多量の災害廃棄物も発生します。災害廃棄物の迅速な撤去、処理・リサイクルは、被災地の復旧・復興に必要不可欠です。私の研究グループでは、人口や建物ストック量等の将来変化を考慮して、南海トラフ巨大地震がどのタイミングで発生した場合に、災害廃棄物がどれくらい発生する可能性があるかを推計しています。また、災害廃棄物の発生場所と発生量を踏まえて、仮置場の運用、災害廃棄物の輸送、処理・リサイクルをどのような形で行えばコストや環境負荷が最小化されるかという検討も行っています。このような研究を通じて、環境的・経済的に好ま

しい災害廃棄物の処理・リサイクルシステムの構築方法を提案することを目指しています。

名古屋大学で学位を取得して10年、神戸大学に赴任して5年が経ちました。家族、ゼミ生、事務職員、共同研究者など、周りの皆さんの協力のもと、着々と成果をあげることができています。2014年には、公益社団法人環境科学会より奨励賞を頂きました。まだまだ未熟ではありますが、我が国の持続可能な社会の構築にお役に立てることができるよう、研究を続けていきたいと考えています。



ゼミ卒業生の追いコンにて

名古屋大学全学同窓会講演会・夕食会報告「高速道路 四方山話」（講師：宮池克人副会長）

名古屋大学全学同窓会代表幹事 伊藤 義人

平成27年12月8日（火）16時から、名古屋大学全学同窓会第2回講演会が学内の坂田・平田ホールで実施されました。参加者は、学生、教職員、名誉教授、一般市民と幅広い年齢層の方々と、総数は約140名でした。学士会との共催で、昨年丹羽宇一郎副会長が講師でしたが、今回は宮池克人副会長が講師をされました。なお、今回は名古屋大学の後援も得ました。宮池副会長は、名大・工・土木の卒業生（私の大先輩）で、中部電力の副社長（現在は顧問）をされた後、中日本高速道路株式会社（NEXCO 中日本）の社長をされています。

司会は私が担当して、最初に全学同窓会の柴田副会長と学士会の久保理事長に主催者あいさつをお願いしました。

講演は、101頁にもなるパワーポイントスライドを作られ、そのカラーコピーも参加者に配布されました。1) 高速道路の歴史、2) 高速道路事業、3) 高速道路のストック効果、4) 今後の課題、5) 交通安全の5つのテーマについて、約1時間半を掛け講演されました。

まず、1) 世界および日本の道路について歴史を振り返り、戦後の日本の高速道路の成り立ちと、最近の民営化後の仕組みについて説明がありました。次に、2) 高速道路事業で、新東名の走りやすい高速道路に関連して、走りやすいトンネル、橋梁、舗装などの技術革新の変遷を話されました。3) 高速道路のストック効果で、高速道路が持っている短期のフロー効果だけでなく、長期に経済成長を支えるストック効果について説明されました。防災・減災に対しても、東日本大震災を例にして役立つことを力説されました。4) 今後の課題として、日本の高速道路の車線数の31.9%が3車線以下であり、他の国では多くても5%程度である。今後の日本の高速道路の拡幅が

必要なことを説明されました。それ以外にも、ETC2.0、自動走行、老朽化対策についての課題を取り上げられました。特に、老朽化に過積載トラックが問題であることを取り上げられました。最近では、休憩施設とくにトイレが進化しており、サービスエリアのトイレがトイレ大賞を受賞し、トイレとは思われないような綺麗な写真が示されました。5) 交通安全に関しては、渋滞が始まったときには、最後尾がもっとも危ない、また路肩に逃げられるので、走行車線を走るべきというサジェスションがありました。事故のときに人が車線に出てはねられる事例が多いという指摘もありました。その他、最近よく報道されますが、高齢者などの逆走車のサインが出たら、これも追い越し車線ではなく走行車線を走った方がよいという指摘がありました。逆走車は、左側通行のつもりで追い越し車線を走ってくる確率が高いからだそうです。

土木工学を専門とする私にとっても初めて聞くお話や役にたつことが多い内容で、聴衆には5) が特に受けていました。

その後、18時から、グリーンサロン東山で夕食会を行いました。30名の参加者で、着席バイキング方式で行われました。昨年と同じように、各テーブルには、空席が用意され、自由に席を移動して、種々の人達と交流ができるようにしました。最初に、柴田副会長と松尾総長が挨拶され、久保理事長の乾杯で会を始めました。終了近くで、宮池副会長に再度登壇いただいたところ、渋滞時と逆走車に対して、どう対処するかという質問をされ、参加者から大きな声で、「走行車線を走る」という回答があり、大いに盛り上がりしました。

最後に、竹下局長から最近の大学の事情について簡単に説明があり、木村理事の締めの挨拶の後、大変和やかに夕食会は終了しました。



講演をする宮池克人副会長



懇親会の様子

天野浩先生講演会が関東支部で実施されました「世界を照らすLED」

名古屋大学全学同窓会代表幹事 伊藤 義人

平成28年1月31日(日)14時から、名古屋大学全学同窓会関東支部主催で、天野浩先生の講演会が学士会館で行われました。講演会の後で、同じく学士会館で関東支部交流会が開催され、200名を超える参加者がありました。天野先生の講演会は、昨年の遠州会主催の講演会に引き続いてであり、また、5月14日(土)の関西支部主催の講演会も予定されており、名古屋大学全学同窓会として大変感謝しております。

講演会には、昭和28年卒から平成27年卒まで世代の異なる卒業生などで一杯でした。講演会は、山口勝さん(平成16年環境学研究科博士修了、NHK職員)の司会で始まりました。天野先生は、50枚を超えるスライドを用意されました。講演の本題に入る前に、まず、同窓会の重要性を強調されました。アジア展開をしている名古屋大学の活動のスライドを示し、名古屋大学基金についても広報をしていただきました。

次に、日本におけるイノベーションの必要性について述べられました。リーマンショック以後、先進国で日本だけが輸出が回復していないことを指摘され、労働生産性を欧米のレベルにまで高める必要性があり、若い研究者のイノベーション創出に期待されました。ビル・ゲイツやスティーブ・ジョブスが起業した年齢を示し、若手を激励されました。創造力の必要なイノベーションを興せる年齢は歳とともに減少することが示されました。また、日本における年齢別主観的幸福度は16歳が最大で、その後ずっと減少し、今回集まった人達の平均年齢の方々が最低という指摘で、笑いが出ました。

引き続いて、青色LEDに見るイノベーションについて詳しく話されました。LED研究の苦難の1970年代から、Paranoid(不撓不屈の意味)の赤崎勇先生と苦労を知らない学生(ご自身)の組み合わせにより、他の研究者が諦めたGaNの研究

で成功したのは、自由な研究室の雰囲気と責任をもって研究に打ち込めたのがよかったということでした。また、目利き人材の存在と、産官学連携の重要性も述べられました。LEDが世界の省エネにどれだけ貢献できるかについても説明されました。

最後に、今後の窒化物発光素子の可能性について触れられ、照明、加工用レーザー、光通信システム、紫外線LEDによる水の滅菌浄化などについて述べられました。

1時間10分の講演の後、質疑応答がありました。普通は、遠慮して質問は出ないことが多いですが、今回は3名の方々が手を上げられました。LEDの利用についても、普通の科学のように負の側面はあるかというような深い質問もあり、天野先生はそのようなこともありえ、科学者は慎重に行動する必要があると答えられました。

予定の時間が過ぎて、後の質問は交流会で天野先生に直接してもらうことになりました。講演会場で、2組に分かれて全員の記念写真を撮りました。

その後、部屋を移って交流会を行いました。司会は、講演会と同じく山口さんが行いました。最初に、丹羽宇一郎支部長の挨拶があり、その後、松尾清一総長の挨拶で最近の大学の近況説明と乾杯がありました。天野浩先生と松尾総長の所には、名刺交換の列ができました。会場全体で、懇談の花が咲きました。名古屋大学男声東京OB合唱団の歌がアンコールも含めて5曲あり、最後に、皆で学生歌「若き我等」を合唱して、片岡関東支部事務局長の閉会の挨拶で、盛会のうちに交流会は終わりました。



会場風景



天野先生の講演

大学支援事業目録贈呈

平成27年11月5日（木）、平成27年度第3回幹事会において、全学同窓会大学支援事業（平成27年度第1回）採択者に目録が贈呈されました。

今回は、14件の応募総数から、表の5件が採択されました。

平成27年度第1回 採択事業

申請者所属・氏名		事業名
アジアサテライトキャンパス 学院・学院長	磯田 文雄	「～松尾総長を迎えて～ 名古屋大学同窓会カンボジア支部新 体制キックオフミーティング」
工学部 物理工学科 材料工学コース2年	海野 貴之	名古屋大学人力飛行機制作サークル AirCraft 鳥人間コンテスト出場、優勝に向けて の人力飛行機の制作、運用
工学部 機械航空工学科 機械システム工学コース2年	三久保 瑛	名古屋大学フォーミュラチーム FEM EV プロジェクト
国際教育交流センター アドバイジング部門 教授	田中 京子	地球家族プログラム～留学生ホーム ステイ事業の新たな展開
大学院国際開発研究科・ 研究科長 / 教授	伊東 早苗	国際シンポジウム： アジア中枢人材育成の今 —私たちができることは？—



採択された事業代表者の方々

事業の内容は、実施後に本誌で紹介され、全学同窓会 HP でも公開されます。また、これまでに採択した事業を全学同窓会 HP で公開しています。

全学同窓会マレーシア支部が設立されました! (15番目の海外支部)

設立総会は平成28年2月21日（日）、クアラルンプール市でおこなわれました。

総会の様子は次号にて報告します。

支部・部局便り News from the Alumni Associations of Different Schools and Regions

部局や地域ごとの同窓会から寄せていただいた便りを掲載します。それぞれが全学同窓会と連携しながら活動しています。

Here you can find announcements and news from alumni associations of schools and/or regions. These associations and NUAL are cooperating with each other to everyone's benefit.

関東支部 NUAL Kanto Branch

関東支部は、学士会館地下の名大東京連絡事務所に、活動しております。2015年度の大きな活動は、

1. 12月8日（火）に、学士会と共催で、名古屋大学坂田・平田ホールにて、中日本高速道路株式会社の宮池社長の講演と夕食会を開催しました。道路の歴史から建設、大震災の時の啓開、経済活動への貢献から将来の交通に到る幅広い講演でした。

2. 1月31日（日）には、学士会館で、天野先生のノーベル物理学賞受賞記念講演会と交流懇親会を開催。200人以上の同窓生と知友が集まりました。天野先生のお話は、名

大のグローバルな特色から、今後強化して行く方向性を若い世代に訴えて、励まされるものでした。交流会の丹羽宇一郎支部長は、学士会に入会して幅広い貢献をして行こうと開会宣言され、松尾総長は、名大の将来に向けての改革推進をして、世界的な研究、教育を、産学官連携して具体的に実現すると話されて、声高らかに乾杯の音頭を賜りました。交流会は盛会に続き、名古屋大学男声東京 OB 合唱団有志の特別演奏は、心の底に熱く響き渡りました。全員で、「若き我等」を、合唱して再会を、誓いました。その後も夜が更け行くのも忘れ、交流は、続けました。H27卒業生もおられ、名大のネットワークは、より拡がって行きます。未来に、夢と希望を、与えた会となりました。御協力頂き

ました皆さまに、感謝し、お礼申し上げます。

■連絡先 関東支部事務局長 片岡大造
E-mail kataoka@sol.dti.ne.jp

関西支部 NUAL Kansai Branch

関西支部では、下記の日程で第11回総会、懇親会を開催いたします。大学から松尾総長、伊藤代表幹事にもご出席いただきます。会員のみなさま及びご家族、ご友人など、多くの方々のご参加をお待ちしております。

日時：平成28年5月14日（土）14時から19時

場所：中央電気倶楽部

大阪市北区堂島浜2丁目1番25号

(1) 講演会、総会（5階大ホール）

1. ご挨拶 笈哲男（名古屋大学全学同窓会関西支部長）

2. 講演会

講演者：天野浩（名古屋大学教授 2014年ノーベル物理学賞受賞）

題目：仮題「世界を照らすLED」

3. 総会

伊藤義人（名古屋大学全学同窓会代表幹事）

全学同窓会活動報告

松尾清一（名古屋大学総長）

題目：「世界屈指の大学を目指して：NU

MIRAI 2020—名古屋大学の挑戦—」

(2) 懇親会（3階大食堂）立食形式（予定）「参加対象者：関西在住会員」

関西在住会員の皆さまには、追って講演内容、参加費等の詳細を、個別にご案内いたします。また、全学同窓会ホームページでもお知らせいたしますので、ぜひご覧ください。

■連絡先 関西支部事務局長 脇田喜智夫
御所南法律事務所 TEL 075-253-0777
E-mail office@goshominami.jp

上海支部&北京支部活動報告

名古屋大学中国交流センター設立10周年記念式典が、9月22日（火）、上海市内の西華ホテルにおいて開催されました。記念式典には松尾清一総長を中心とした本学の教職員、全学協定校代表及び全学同窓会上海支部及び北京支部会員など合わせて約100名が出席しました。

式典は、松尾総長より開会の挨拶があった後、平野眞一元総長ら来賓の方々より祝辞が述べられました。その後環境分野の研究者による基調講演や張紹良中国交流センター長によるセンターの活動報告が行われました。最後は、長年に渡って、上海地区の大学に留学する学生へホームステイや会社見学の機会を提供する等センターの活動を支援してきた上海支部及び北京支部の関係者に対し、松尾総長から同センター幹事としての委嘱状が交付されました。

式典終了後に開催されたレセプションでは、総長及び協定校代表者からの挨拶の後、上海環球金融中心有限公司総経理 星屋秀幸氏が上海支部を代表して挨拶されました。続いて、上海交通大学教授 楊立上海支部幹事長から上海支部の活動報告があり、会員一丸となって引き続き本学の国際化に貢献したいと挨拶されました。

翌日、総長は本星屋氏のご案内で上海市内を視察されました。総長は上海の著しい発展に感心され、中国と交流を深めて行くことの重要性について再認識された様子でした。

総長は引き続き北京市を訪問され、9月25日（金）夕方、北京市内のレストランで清華大学教授 馬智亮北京支部幹事長はじめとした北京支部の会員と懇談し、交流を深めました。

国際開発研究科同窓会

1991年に創設された大学院国際開発研究科は、今年25周年を迎えます。2016年7月29日（金）に、創設25周年記念式典の一環として国際シンポジウムを開催いたします。著名な修了生らを招へいし、講演やディスカッションを行います。この機会に、国際開発研究科同窓会は国内外で活躍している多くの修了生に呼びかけ、参加を募ります。当日、参加できない修了生は、テレビカンファレンス機能を通して、名古屋大学の海外拠点（タイ、カンボジア、フィリピン）において、傍聴や意見交換ができるようにいたします。シンポジウム後には、修了生、在学生、教員を交えた懇親会により旧交を温めます。詳細につきましては、研究科ホームページをご覧ください。

■連絡先 劉靖

E-mail liujing@gsid.nagoya-u.ac.jp

国際言語文化研究科同窓会

国際言語文化研究科同窓会では、2015年10月17日（土）のホームカミングデーで公開シンポジウム「今、日本語教育

の現場から見えること」を開催した。本研究科の日本語教育研究は優れた実績を残しており、多くの修了生が国内外の日本語教育・研究機関で働いている。今回は日本語教育の様々な領域で活躍する修了生に講演をしてもらい、日本語教育学講座の鷺見幸美准教授の司会のもとで、フロアの人たちと日本語教育の現状について話し合った。講演者と講演のタイトルは次のとおりである。

- ・ 北村祐人（名古屋大学・とよた日本語学習支援システムシステム・コーディネーター）
「日本語教育×地域、そのあり方—とよた日本語学習支援システムでの実践を通して—」
- ・ 佐原かおり（浜松市立江南中学校講師）
「浜松市公立中学校における日本語指導と教科学習支援」
- ・ 山科智映子（小牧市立小牧中学校教諭）
「学校現場における外国人児童生徒の支援—小牧中学校の国際理解教室を例に—」
- ・ 宮島良子・寺田友子（名古屋大学大学院法学研究科特任講師）
「日本語教育の可能性—異分野との協働から見えてくるもの—」
- ・ 東会娟（帝京大学 T-SAC 日本語予備教育課程講師）
「架け橋としての役割を担って—非母語話者教師が日本国内の日本語教育においてできること—」

シンポジウムの後にはオープンホールでティーパーティーを行い、修了生・在学生・教員の交流を行った。

■連絡先 国際言語文化研究科教授 杉村 泰

E-mail sugimura@lang.nagoya-u.ac.jp

http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/



公開講座



ティーパーティー

同窓会支援事業 NUAL Support Project

全学同窓会の活動理念に沿った名古屋大学の活動（学生活動、就職支援事業、本部・部局による行事・寄付講義等）を支援するため、公募型の大学支援事業を実施しています。

NUAL has an open invitation type support project for Nagoya University's activities (including student activities, employment support service, events and lectures) in harmony with the activity principle of the association.

～松尾総長を迎えて～名古屋大学全学同窓会 カンボジア支部 新体制キックオフミーティング

申請代表者：磯田文雄
(アジアサテライトキャンパス学院・学院長)

カンボジア同窓会では、10月8日にアジアサテライトキャンパス学院カンボジアサテライトキャンパス入学式に出席するためにカンボジアを訪問していた松尾総長他名大関係者を迎え、「～松尾総長を迎えて～名古屋大学同窓会カンボジア支部新体制キックオフミーティング」を開催しました。

本会は2014年に開設した名古屋大学カンボジア代表事務

所と新同窓会会長以下に新設された同窓会委員会メンバーの協力事業であり、今後も ALL 名大でカンボジアでの同窓会活動をより活発に発展させることを確認しました。

当日はカンボジア人同窓生、名大関係者を含め80名を超える参加があり、同窓会の中で「アジア諸国の国家中枢人材養成プログラム」の紹介を行うなど、次年度以降の学生募集活動にも繋げる機会となりました。また、日本大使館関係者や JICA 関係者、カンボジア日本元留学生協会からも参加があり、カンボジアにおける名古屋大学の抜きんでた同窓生数やネットワークを強く印象付けることができました。

本会の様子は地元 TV でも放送され、カンボジアで広く名

古屋大学のプレゼンスを高めることができ、非常に有意義なものになりました。



同窓会カンボジア支部新役員紹介の様子

工学部電気系同窓会二葉会会報「赤崎教授・天野教授ノーベル物理学賞受賞記念特別号」の発刊

申請代表者：古橋 武
(工学研究科・教授)

2014年11月、二葉会会員である赤崎勇先生、天野浩先生がノーベル物理学賞を受賞されました。これを記念して、二葉会では、全学同窓会のご支援を受け、会報 FUTABA「赤崎教授・天野教授ノーベル賞受賞記念特別号」を2000部作成し、二葉会員ならびに関係各位に発送しました。

特別号では、赤崎先生、天野先生からご寄稿いただくとともに、二葉会の田中孝明会長をはじめ、松尾清一名古屋大学総長、豊田章一郎全学同窓会会長など、大学・同窓会の関係各位より寄せられた多数のお祝いのお言葉を掲載しました。また、ノーベル賞授賞式に出席された天野研の本田先生からは、「ノーベルウィークレポート」と題して、出席者の視点から、授賞式における赤崎先生・天野先生の表情や lectureの様子などをご紹介いただきました。さらに、「当時を振り返って」と題し、赤崎研・天野研に縁の深い11名の方々から、お祝いのお言葉とともに、青色発光ダイオードの開発にまつわる苦労話、ノーベル賞授賞式の様子、赤崎先生・天野先生の研究に対する情熱や信念、教育者としての理念や学生との接し方など、様々なエピソードをご紹介いただきました。これらに加え、二葉会員の有志4名からのお祝いの短歌、赤崎記念研究館の資料に基づく「青色発光ダイオードの開発の歴史」の紹介や、会報 FUTABA のアーカイブによる赤崎先生ご退官時の寄稿記事などを掲載しました。

このように、赤崎先生・天野先生に縁の深い方々のご寄稿を中心に、同窓会ならではの内容にて、ノーベル物理学賞を記念した特別号を発刊することができました。最後になりました

が、本特別号発刊にあたり、名古屋大学全学同窓会支援事業より多大なるご支援をいただきましたことに感謝いたします。



「会報 FUTABA 赤崎教授・天野教授ノーベル賞授賞記念特別号」表紙

同窓会タイ国支部との連携強化、およびバンコクオフィスとの連携による学生派遣事業

申請代表者：今井千晴
(国際教育交流センターキャリア支援部門 特任講師)

本事業では、国際教育交流センター海外留学部門とキャリア支援部門、そして、名古屋大学バンコク事務所が協働して企画運営した、全学部生向けの短期海外研修：「現代タイ事情」（参加者：13名）を支援して頂いた。具体的な研修内容は、以下の通りである。

- ・タイの現事情に関する講義とそれに関連するフィールドトリップ
- ・タイ国同窓会支部長の在籍するカセサート大学訪問、動物病院見学、学生交流
- ・現地同窓生との、アクティビティを交えた交流・懇談会
- ・タイに現地法人を持つ日本企業訪問、日本人社員や現地社員との交流 (JETRO、IHI、博報堂プロダクツ、ニチレイフーズ)
- ・協定校 (チュラロンコン大学、カセサート大学) に在籍する学生との交流

特に、海外で活躍する名古屋大学同窓生との交流・懇親会 (2/20実施) は、参加学生にとって、大きな刺激であった。交流中にタイ同窓会支部長である Apinun Suprasert 教授が積極的に学生を激励してくださり、学生も英語で精一杯、各自の将来のことを相談していた。同窓生が在校生を育成する

光景を見ることができた。

本事業の支援を受けて実現した、海外で活躍する同窓生の先輩達との交流は、日本人学生の意識の国際化に良い刺激となると共に、同窓会タイ国支部とのネットワーク強化につながったと認識している。また、企業訪問を通し、海外で活躍する日本人社員、日本企業で活躍する現地社員との意見交換や、製造工場の見学など、学生たちが直接現役のグローバル人材と触れ合う機会を設けることが出来た。学生のアンケートでも、企業訪問については特に好評で、次年度実施の際は更にこの内容を充実させることとなった。今後、益々国際化の進む名古屋大学において、バンコク事務所と同窓会海外支部との連携強化が促進されることで、学生たちをグローバル社会で活躍しうる人材として育成するための基盤となっていくことが期待できる。

また、スーパーグローバル大学創成支援事業に本学が採択されたことで、同海外研修は今回以上拡大し、継続して実施していく予定である。今回支援頂いた内容を基盤として、研修の充実化を図っていききたい。研修実現のために本事業を採択して頂いた同窓会の皆さまをはじめ、研修実現のために協力頂いた同窓会タイ国支部の皆さま、訪問先企業の皆さまに心より御礼申し上げます。



研修参加者とバンコク事務所にて

障がい留学生の修学支援と地域住民との連携を目指して

申請代表者：坂野尚美
(国際教育交流本部 国際教育交流センターアドバイジング部門 ソーシャルサービス室・特任教授)

名古屋市内における外国人留学生の円滑な受入れの促進と交流活動の推進を図るとともに、地域住民の国際理解の増進に寄与するために、多文化ピアサポーター研修、留学生家族や外国人家族を対象としたイベント、留学生と地域住民との交流の推進（50・50プログラム）などのプログラムを実施しました。どのプログラムも充実したプログラムとなり、全学同窓

会支援事業として、全学の皆様と地域の皆様に喜んでいただけるものとなりました。

留学生のよりよい受入れの推進（多文化ピアサポーター研修）として、ファシリテーター及びサポーター研修を4月～7月まで毎週（計10回）実施しました。参加者はのべ約160名となりました。また2015年9月に、①三好特別支援学校、②名古屋聾学校、③名古屋盲学校の3校のご協力を得て研修をしました。参加した多文化ピアサポーター研修の学生から、以下のようなコメントをいただきました。

私たちは誰も完璧に生まれてくるわけではありません。今日の経験でいろいろな知識や情報を得ることができました。先生方がそれぞれの生徒に合わせてクラスを進めていくのはどんなにか難しいことかと思いました。しかし経験のたまものか、クラスはスムーズに進行していました。それぞれの生徒がそれぞれの能力や知識を持っていることに驚きました。近い将来、私はこの貴重な機会で得たものを、援助を必要としている人に役立てたいと思います。このような機会を与えていただき、どうもありがとうございました。（Fさん）

また2015年5月15日～16日、G30の外国人教員家族を中心に家族の交流としてイベントを一泊二日で開催しました。（中津川研修センター）とても充実したイベントとなりました。

留学生と地域住民との交流の推進（50・50プログラム）として、2015年7月24日に地域住民の国際理解の増進に寄与するために地域住民の方々（名古屋聾学校の学生、放課後デイケアセンター COCO アイランドの利用者とその家族、スタッフ）と夏祭りを実施しました。このイベントや教育を通じて、互いの理解を深める時間をつくったことで、より外国人留学生の円滑な受入れの促しと交流活動を積極的に行うことができました。参加人数は留学生および地域住民の方々約60名、サポーターおよびファシリテーター15名、スタッフ4名でした。全学同窓会支援事業費を頂き、上記のような活動が出来たこと、障がい留学生の修学支援と地域住民との連携が進む一助になったことを、心より感謝致します。ありがとうございました。



愛知県立名古屋盲学校の研修風景

■同窓会・大学行事カレンダー

全学同窓会、部局同窓会、及び、大学に関する行事が下記のとおり開催されます。
詳細は、全学同窓会ホームページ <http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/> をご覧下さい。

○関東支部

1) 平成28年度 鏡ヶ池会東京支部総会

工学部・土木系卒業生の同総会である鏡ヶ池会の東京支部（会員数600名以上）の年間最大行事である支部総会のご案内です。平成27年度は93名が参加しました。

日 時：平成28年11月18日（金） 18:30～20:30

場 所：主婦会館プラザエフ B2F クラルテ

<http://www.plaza-for.jp>

〒102-0085 東京都千代田区六番町15番地

TEL. 03-3265-8111（代表）

JR 四ツ谷駅 麴町口前（徒歩1分）

東京メトロ南北線・丸ノ内線 四ツ谷駅（徒歩3分）

連絡先：大林・東武・鉄建・戸田建設共同企業体（IV工区）

東武竹ノ塚JV工事事務所 今枝靖典

〒121-0822 東京都足立区西竹の塚2-13-4

竹の塚ロジュマン201号

TEL. 03-5647-8657 FAX. 03-5691-4131

E-mail : imaeda.yasunori@obayashi.co.jp

2) 東京キタン会（経済学部）定期総会

日 時：平成28年6月25日（土）

連絡先：東京キタン会事務局 森本重彦

TEL. 050-5803-8703

E-mail : mrmshgh00@ae.em-net.ne.jp

3) 第9回東山会関東支部総会

日 時：平成28年5月14日（土） 12時30分より

場 所：学士会館

〒107-0062 東京都千代田区神田錦町3-28

特別講演：赤崎 勇 名城大学終身教授（名古屋大学特別教授・名誉教授）

「青色LEDはいかに創られたか」

詳細は、東山会関東支部 HP (<http://www.higashiyamakai-kanto.com/>) にてご確認ください。

○関西支部

日 時：平成28年5月14日（土） 14:00～19:00

場 所：中央電気倶楽部

大阪市北区堂島浜2丁目1番25号

(1) 講演会、総会（5階大ホール）

1. ご挨拶 笈哲男（名古屋大学全学同窓会関西支部長）

2. 講演会

講演者：天野浩（名古屋大学教授 2014年ノーベル物理学賞受賞）

題 目：仮題「世界を照らすLED」

3. 総会

伊藤義人（名古屋大学全学同窓会代表幹事）

全学同窓会活動報告

松尾清一（名古屋大学総長）

題 目：「世界屈指の大学を目指して：NU MIRAI 2020—名古屋大学の挑戦—」

(2) 懇親会（3階大食堂）立食形式（予定）「参加対象者：関西在住会員」

連絡先：関西支部事務局長 脇田喜智夫

御所南法律事務所 TEL. 075-253-0777

E-mail : office@goshominami.jp

○名大遠州会第21回同窓会

今年は第11回同窓会総会を開催し、総会終了後懇親会を開催します。

日 時：平成28年6月18日（土） 16:40～（受付16:10～）

場 所：オークラアクトシティホテル浜松

連絡先：名大遠州会事務局 原田憲道

E-mail : ensuhurd@yahoo.co.jp

○名古屋大学文学部・文学研究科同窓会

〈第14回総会〉

日 時：平成28年3月19日（土） 16:30～17:15

場 所：文学部講義棟1階127講義室

〈懇親会〉

日 時：同日 17:30～18:30

場 所：文学部講義棟1階小会議室（130号室）

会 費：2000円（当日申込み）

連絡先・E-mail : bun-doso@lit.nagoya-u.ac.jp

* 詳細は、

名古屋大学全学同窓会 Web ページ (http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/lecture2015_miyaike.html)、

Facebook ページ (<https://www.facebook.com/nualface>)

にてご確認ください。

事務局からのお知らせ From the NUAL Office

●支援会費のお願い Call for contributions

名古屋大学全学同窓会の活動は、皆様からの支援会費、寄附金に支えられています。支援会費は年度ごとのお支払いとなります。皆様のご協力をお願いします。

○支援会費 Supporting Fee

支援会員 Supporting member : 一口 5,000円
支援法人会員 Supporting institution : 一口 50,000円

○支払い方法

郵便振替 Post Office Account 口座番号：00860-8-113043

自動引落 利用ご希望の方は、預金口座振替依頼書をお送りしますので、同窓会事務局にご連絡ください。

「名古屋大学カード」の入会のご案内

～名古屋大学カードで繋がる大学支援～

全学同窓会は、同窓生と母校との連携強化・大学支援の充実を目指し、「名古屋大学カード」を発行しており、利用金額の一部が同窓会に還元されます。

◆名古屋大学カード～ゴールド～

入会者は**13,000名**を超えています。



年会費永年無料! 家族会員様も1名様に限り無料。
ポイントがたまる! 家族会員様のご利用分もまとめて本会員様へ付与。

- 国内・海外旅行傷害保険付帯 最高3,000万円
- ショッピング保険 年間補償限度額 200万円
- 空港ラウンジサービス

◆名古屋大学 MUFG CARD Platinum American Express® Card

プラチナ会員様限定の上質なサービスと快適性を兼ね備えた、最高の1枚。



- プラチナ会員様専用の特別なサービスを多数ご用意
- 初年度年会費半額優遇キャンペーン実施中

20,000円(税別) ⇒ 10,000円(税別)

※キャンペーン期間が延長となりました! 2016年3月31日(木)まで
名古屋大学全学同窓会事務局 入会申込受付分まで

～プラチナ会員様専用の特別なサービス～

- ・プラチナ・コンシェルジュサービス
- ・海外空港ラウンジサービス プライオリティ・パス
- ・プラチナ・グルメセレクション
- ・手荷物空港宅配サービス
- ・アメリカン・エクスプレス・コネクト

入会方法について

① WEBからのご入会を希望の方

名古屋大学全学同窓会 HP からお申込みください
⇒ <http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/>

② 入会申込書からのご入会を希望の方

名古屋大学全学同窓会へ入会申込書をご請求ください
⇒ TEL/FAX : 052-783-1920 (受付 : 9:00～17:00)

名古屋大学 MUFG カード・プラチナ・アメリカン・エクスプレス®・カードはアメリカン・エクスプレスのライセンスに基づき三菱 UFJ ニコス株式会社が発行・運営しております。「アメリカン・エクスプレス」はアメリカン・エクスプレスの登録商標です。

●カード優待サービスの企業を募集しています。

●ニューズレターへの企業広告を募集しています。

いずれも詳細は全学同窓会事務局へお問い合わせください。

編集後記

今号では、恒例行事となったホームカミングデーでの全学同窓会関連行事の報告に加えて、27年度全学同窓会支援事業において助成を受けた名大人力飛行機制作サークル AirCraft の活動の様子をご紹介いただきました。また、海外と国内の教育と研究分野で活躍している本学の卒業生2名の研究者より活躍の様子をお話いただきました。各支部からは様々な活動報告も届きました。引き続き卒業生の皆様のご支援どうぞ宜しくお願い申し上げます。(全学同窓会広報委員会)

NUAL Newsletter No.25 平成 28 (2016) 年 3 月発行

Nagoya University Alumni Association

NUAL 名古屋大学全学同窓会

〒464-8601 名古屋市千種区不老町 TEL/FAX 052-783-1920

E-mail nual-jimu@adm.nagoya-u.ac.jp

ホームページ <http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/>

編集：名古屋大学全学同窓会広報委員会